

## 取り扱い品 生産者紹介

### 氷上低温殺菌牛乳と共に歩んだ 30 年

中野 宗嗣

今秋で氷上パスミルクが発足して 30 年になる。当初から生産農家として携わり、5 年後「和達の会」より野菜と米も要求され、現在 7 頭の乳牛、50 種以上の有機野菜、そしてアイガモ稲作を行っている。私の人生で、「低温殺菌牛乳をぜひ私たちの組合で」と、熱い思いを寄せて下さった数多くの消費者の皆さまとの出会いほど大きなものはない。

今春、私は古希を迎えましたが、この小頭数ではあるが酪農を中心にした複合経営に悔いはない。幸い健康にも支えられており、この農業をこれからも極めてみたい。

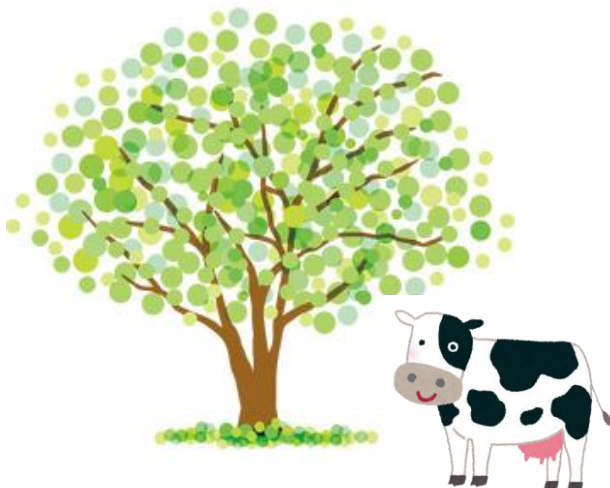
30 年の歩みを振り返って、20 年以上前、思い切って我が家から 700m 離れた田んぼの中に牛舎を新築し、今ではケヤキとポプラの大木が運動場の周りにある良い環境になったことが大きな出来事である。

数年前、フランスとイギリスから有機農業運動の視察研修で牛舎見学をされた事、今年 6 月、神戸シルバー大学から 47 名が大型バスで来られ、運動場に放されている牛を見、搾りたての牛乳を飲み、放鳥された直後のアイガモ田と野菜畑を見て頂いた事は大変な励みとなった。

土づくりは牛糞堆肥が一番良いと言われている。

生産される牛乳も理想的な低温殺菌で処理され、遺伝子組み換えでないエサを使い、出来る限り粗飼料を自給している。

この農業を誇りにして、これからも消費者の皆様と共に歩んでいきたい。



## 地域資源を活用した酪農を目指して

丹波市青垣町 吉田 拓洋



新規就農者として私が妻と子 2 人の家族と酪農を始めたのは平成 21 年 4 月 1 日のことでした。当時は穀物の先物取引により飼料が相当な価格になっており、その時点での酪農への新規就農はかなりハードルの高いものでした。にもかかわらず、私が丹波の地で酪農を一生の仕事することを決心したのは生産地から消費地への距離でした。私の牛舎の前を毎日登下校の小、中学生が通りますし、その中には犬や猫と遊び、真剣な目で牛を見る子供もいます。この子たちが毎日給食で飲む牛乳が私の世話をしている牛たちから搾られた生乳でできている、な

んと素晴らしい事なんだろう！

酪農を始めてからの課題は、やはり飼料コストが主を占める経費割合＝利益率の低さでした。行政などの方針として自給飼料の増産がありました。しかし高額な機械導入の初期費用と労働力の確保は私には実現が難しい課題でした。乳牛の管理技術も経験もない私にはその世話で精一杯でした。

そんな中、地域の耕種農家さんが私の牛舎でできた堆肥を重宝して下さり、今では複数の農家さんが合計約 7 h a の田んぼで牛の飼料用の稲をつくってくれています。この稲でできた W C S（ホールクロップサイレージ：稲発酵飼料）は嗜好性も良く、生産した農家さんが孫を連れて牛舎に牛を見に来てくれるおまけもついてきました。W C S の生産量が増えてきたおかげで乾草などの粗飼料が通年で価格変動がなく使うことができ、経営も安定してきました。耕種農家さんも転作水田を有効に活用し、耕作放棄地の発生を無理なく抑制することができます。

これからは新興国の人口増によって世界的にも食料の確保は年々困難になっていくものと思われまます。そのなかで、乳牛という人間が直接には栄養とできないものを牛乳として人間に与えてくれる大切なパートナーとともに地域の資源を循環させ、その活動が消費者に理解され、支えて頂ける酪農を私は酪農経営の目標としていきます。



### 「拓ちゃん牧場」を紹介します

飼養頭数：79 頭（2015. 7. 16 現在）

（うち経産牛：38 未経産・育成：41）

年間乳量出荷量：約 420t

飼料作物作付け面積：8ha

うち飼料用稲（WCS 用稲）：7ha